

第 193 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 5 年 1 月 12 日（木）9:15～10:00

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

＜報告事項＞

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

＜議題事項＞

- ◇ 沖縄県対応方針の変更について議論した結果、現行の対応方針を延長することとした。

1 参加者

照屋 副知事、池田 副知事、島袋 政策調整監、嘉数 知事公室長、
宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、宮平 子ども生活福祉部長、
糸数 保健医療部長、崎原 農林水産部長、松永 商工労働部長、
真鳥 観光政策統括監、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、
半嶺 教育長、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、
喜屋武 警備第二課長 宮里 感染対策統括監、
テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

欠席 玉城 知事

2 報告事項

（１）沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について【資料 1～7】

➤ 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。

- ✓ 病床使用率はここ 2 週間 30% 台で推移していたが、1/10 から 40% を超えている。重症者用病床使用率は 12/28 に 20% を超えていたが、その後減少し 10% 台で推移している。
- ✓ 前週比は 1/4 に 0.99 となっていたが、年末年始で医療機関の休業等で一時的に下がっているものであり、それ以降は 1 を上回る数値で推移している。直近では 1.71 となっている。
- ✓ 新規陽性者数は、1/5 から 3 日続けて 2,000 人を超える数値となっており、昨

日も 1,847 名と 2,000 人に迫る人数となっている。

- ✓ 入院中の患者は 2 週間前 240 名、1 週間前は 237 名と大きな増減はなかったが、その後徐々に増えており、直近では 292 名となっている。
- ✓ 全国の「直近一週間の人口 10 万人当たり新規陽性者数」では、中国・九州地方での感染が続いている状況。沖縄県は全国 40 位と、前回よりやや悪化している。
- ✓ 沖縄県の年代別新規陽性者数の推移では、20 代の急激な増加が見られる。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限について、1/11 は 427 名が休業しており、9 月、10 月の 200 人台のところに比べると、休業者は増加している。内訳として、休業者の半数は看護師、ついでコメディカル・事務職員、医師と続いている。
- ✓ ワクチン接種状況について、1/10 時点では、1 回目、2 回目は 70% 台、3 回目は 50.9% で、4 回目が 27.8%、5 回目が 9.7% となっている。
- ✓ 3 回目～5 回目接種のうち、オミクロン株対応ワクチンの接種率は、70 代で 50%、80 代以降は 40% 台の接種率となっている。その他の世代ではあまり接種が進んでおらず、特に 20 代は 9.3% に留まっている。
- ✓ 令和 4 年秋開始接種の接種対象者数及び接種実績では、10 月に 45,847 名、11 月に 118,402 名、12 月に 146,417 名が接種しており、1 月現在は 9,938 名が接種している。累計では、1 月末時点の接種対象者 1,056,582 名に対し、324,642 名が接種している。割合としては、30.73%。60 歳以上に限定すると、接種対象者のうち 44.54% が接種済みとなっている。
- ✓ 出向き接種の状況、商業施設では 1 月にイオンモールライカム、うるマルシェ、イーアス豊崎での出向き接種を予定している。
- ✓ 県庁・大学の接種では、12 月末までの実績を掲載している。今後、予定が決まり次第順次掲載していく。

(2) 県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 1/11 時点の県立病院の入院患者は 85 名で前回報告より 20 名増、前々回報告より 28 名増。県立病院が現在確保しているコロナ病床のうち、69.7%が稼働している。
- ✓ 県立病院の入院患者は、北部病院 29 名、中部病院 23 名、南部医療センター14 名、宮古病院 6 名、八重山病院 9 名、精和病院 4 名となっている。非コロナ病床稼働率は中部、南部で 100%に近い状況で、北部 85.4%、宮古 93.9%、県立病院全体で 90.1%とかなり高い利用率になっている。
- ✓ 北部病院でこれ以上入院が増える場合は一部病棟を閉鎖する予定。コロナとインフルエンザの同時流行が増加。検査キットのストックが懸念される。グループホームで発熱患者が発生し、職員が介入している。
- ✓ 中部病院では、コロナ関連による職員の休業者の増加のため、1 月 10 日から 13 日までの予定で一般外来（内科）の診療制限を行っている。中頭病院と中部徳洲会病院は満床になっている模様。中部病院も満床となるのも時間の問題。コロナは那覇の待機ステーションが空いている場合は利用できるが、その他の中等症、重症も中部医療圏域外へ搬送せざるを得ない状況になることが想定される。
- ✓ 南部医療センターでは成人一般病床の不足が深刻で入退院の調整に苦労している。職員の休業者も増加しているが、病床不足のため病棟を縮小することは難しい。1 月 8、9 日の日曜祝祭日の夕方から医師会館で小児発熱軽症者の診療が開始され 60 人の診療が行われた。救急室の受診者が減少したが、それでも 1 日 150 人の受診者があり依然として受診者は多い。
- ✓ 宮古病院ではコロナ患者は増加していないが、インフルエンザは先週より増加している。職員の休業者は 22 名で労働喪失が危惧される。今後コロナは横ば

い、インフルエンザの増加が予想される。

- ✓ 八重山病院では1月7～9日の3連休は、発熱外来及び救急外来に平均 50～60 名と多くの患者の受診があり、そのうち約 6～7 割は発熱患者であった。発熱外来を実施している他の病院の患者受入が厳しくなったことから当院を受診する患者が増加したと思われる。今後も患者数が同水準で推移する場合は、ドライブスルー外来の再開を検討する。
- ✓ 精和病院での診療は通常業務に戻っており、救急輪番も再開した。
- ✓ 年末年始における救急外来受診者数は、県立病院全体（精和病院を除く）で、1日平均 527.5 人が受診しており、年末年始前と比べ概ね 2 倍の受診者数となっていた。
- ✓ 県立病院でも休業者は増えており、1/4 現在で 116 名が休業している。
- ✓ 全体としてインフルエンザが増加している。中南部の病床がひっ迫しており、ワクチン接種や感染予防について、県民に呼びかける必要がある。

（３）宮古・八重山地域の感染状況について

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
- ✓ 今週の陽性者は 123 人で、前週が 51 名だったため、2.4 倍程度増加。1/11 からの推計では 1 日 100 名程は宮古。昨年同時期は最高 130 人程度だったので、それに比べるとやや少ない。
- ✓ 入院患者は 7 名前後で、増加はない。昨年同時期だと 20 名程度入院していた。
- ✓ 施設の発生状況は一週間で 22 施設。先週が 4 施設だったため、増加している。最大で一週間 34 施設から報告があった。施設内療養者は 8 名で、こちらも最大 67 名だったので、顕著な増加は見られないが、訪問看護施設やデイサービスでも感染が見られる。5 名以上発生した施設は 15% 台で、前週と同じく大幅な増加はない。

- ✓ 多良間村では年末に大規模な感染があったが、高齢者の集まりがいくつかあったと報告があり、その影響は考えられる。
- ✓ 宮古地域のインフルエンザは定点あたり 9.25。10 以上が注意報なのでその一歩手前。県全体ほどではないが、宮古でも流行。小学生での流行が多いとの情報がある。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 直近一週間では 264 名の陽性者。前週 155 名だったので、前週比 1.7 倍。この中で、発生届出数は 63 人。前週 36 名だったので、前週比 1.75 倍と急激に増えている。
 - ✓ 年代階級別では割合が高い順に 20 代、40 代、50 代となっている。
 - ✓ 離島での届出数は、竹富町で 3 件、与那国町で 0 となっており、移送については発生していない。
 - ✓ 障害者施設でクラスターが発生。現在のところ入所者 34 名、職員 17 名の計 51 名。最初の発生が 1/11 で、1/25 まで資材の提供、健康観察を行いながら対応しているところ。
 - ✓ 八重山保健所の体制としては、従来の体制で対応しているところ。
 - ✓ インフルエンザについて、12/16-25 は 1 名、12-26-1/1 で 6 名、1/2-1/8 で 57 名と、定点あたり 19 と急激に増加している。注意報レベルに上がっており、懸念が挙がっている。

(4) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA 等の状況【資料 8】

- 文化観光スポーツ部より報告
 - ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、1/2 の週の受検者は 2,551 名で、前週比 +573 名。内訳は、県内が +570、県外が +3、陽性者は +49。陽性率は 4.9%

で、前週比+1.0%。

- ✓ 各空港で検査件数が増加しているが、那覇空港、下地島空港では県外の検査数が前週比で減っている。
- ✓ 那覇空港抗原検査についても、検査件数は増えているが、県外の検査数が-53と大きく減っている。陽性者数は13名で前週比+2。
- ✓ TACOについて、1/2の週の電話対応件数は63人で、うち健康相談・問診実施数は42人となっている。

(5) 質疑応答

- ✓ 病院事業局提案のワクチン接種、感染予防策、救急受診の呼びかけについては、本日の知事コメントに含める形で調整中。

3 その他報告事項

(1) 沖縄県対処方針の変更について【議題資料1】

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 現在の県の対処方針が1/13までとなっているが、感染状況を踏まえて対処方針の変更を行いたい。
- ✓ タイトルは現在の対処方針と変わらず、要請期間を令和5年1月14日（土）から令和5年2月12日（日）としている。
- ✓ 現況として、沖縄県では1月以降も新規陽性者数の増加が続いており、病床使用率も1/11時点で43.3%と悪化している。また、インフルエンザの増加、医療従事者の休業者も増加しており、一部の医療機関では病床確保が難しくなっている。流行の規模が大きくなるにつれて、救急や発熱外来の患者も増加するなど、医療提供体制ひっ迫の懸念が生じている。
- ✓ 県の方針として、警戒レベル2を維持しつつ、感染対策とワクチン接種を呼び

かける。また、重症化リスクや病状等に応じた受診の呼びかけを行う。

- ✓ 更なる感染拡大時の対応として、警戒レベル3に移行した場合は、医療ひっ迫防止対策強化宣言を行い、県民や事業者等に対して医療ひっ迫を防ぐための協力要請・呼びかけを実施することとしているが、今のところはレベル移行をせず、現行の対策を継続する。
- ✓ 2 ページ目の県民の皆様へのお願いについて、現行の対処方針では年末年始についての記載がされているが、新たな対処方針ではシンプルな形としている。
- ✓ 3 ページ目のワクチン接種の項目について、副反応を気にする方に向け、ノババックスワクチンの接種の検討について触れている。また、季節性インフルエンザが流行しているため、インフルエンザワクチンについても触れている。
- ✓ 9 ページ目にコロナとインフルエンザの同時流行の対策についてのお願いを記載している。
- ✓ 1. 感染状況について、コロナの人口 10 万人あたりの新規陽性者の増加と共に、インフルエンザ定点からの報告数が増加傾向にあり、基本的な感染対策の徹底について呼びかけている。
- ✓ 2. ワクチン接種について、受験、就職等で県外に移動される方へ、早めのワクチン接種の案内、コロナワクチンの追加接種についての検討、インフルエンザワクチン接種についてお願いしている。
- ✓ 3. 軽症の方はコロナの検査キットを活用し自宅療養を。高齢者や妊婦、透析患者を含めかかりつけ医のいる方は、かかりつけ医の利用を。水分や食事がとれない、ぐったりしている等の場合には、県の発熱コールセンターに相談し、発熱コールセンターに相談し、発熱外来、かかりつけ医の受診について案内している。
- ✓ 4. 療養期間中は人との接触を控えて。コロナの場合、発症日・検体採取日を 0 日目として 7 日間経過し、かつ症状軽快後 24 時間経過することが必要。イ

インフルエンザは発症日から発症後 3～7 日間は鼻やのどからウイルスを排出するといわれており、周りの方に移さないよう配慮を。小学校、中学校、高校、特別支援学校や幼稚園では、インフルエンザの出席停止期間（発症した後 5 日経過、かつ、解熱した後 2 日経過（幼児は、3 日間経過））の療養が必要。

- ✓ 10 ページ目、同時流行に対応した医療体制確保の取組として、①沖縄県小児等発熱軽症者抗原検査センター、②発熱外来拡充の取組を行う。
- ✓ ①沖縄県小児等発熱軽症者抗原検査センターについて、日曜、祝日の夜間の検査対応として、沖縄県医師会の協力の下、南風原町に、1/15、22、29 の 17 時から 20 時までの間、沖縄県小児等発熱軽症者抗原検査センターを設置する。対象者は、37.5℃以上の発熱がある軽症者のうち、新型コロナ及びインフルエンザの検査を求める中学生以下の小児で、同行されるご家族も症状があれば利用可能となっている。
- ✓ 受診の流れとして、①発熱コールセンターへ相談、②抗原検査センターを紹介、③抗原検査センターで新型コロナ・インフル同時検査キットを配布（100 件/日）原則、受検者自ら検査、④医師による結果判定、診断結果や症状に応じた対応、⑤検査結果に関わらず、医師が必要と判断した場合は、救急受診を調整となっている。
- ✓ 発熱外来拡充の取組で先行して、1/8、9 にそれぞれ 5 ヲ所の医療機関で開設した結果、1/8 は 139 名、1/9 は 184 名の受診があった。

（3）質問応答

- ✓ インフルエンザワクチンの接種について呼びかけているが、ワクチンの接種率は確認できるのか。また、ワクチンの在庫は残っているのか確認できるか。
→インフルエンザのワクチンについては、従来定期接種となっており、65 歳以上の方、60～64 歳以下の基礎疾患がある方については、接種対象者として各市

町村で分母を捉えており、流行シーズンが終わった後高齢者の接種率は把握できるが、一般の子ども等の接種率は難しい。ワクチンの在庫については、県内の卸売業者から各医療機関に配送しており、このシーズンには在庫確認しており、不足があればメーカーと連絡するなど、調整は毎年行っている。

- 議論の結果、沖縄県対処方針について延長することを決定した。

閉 会